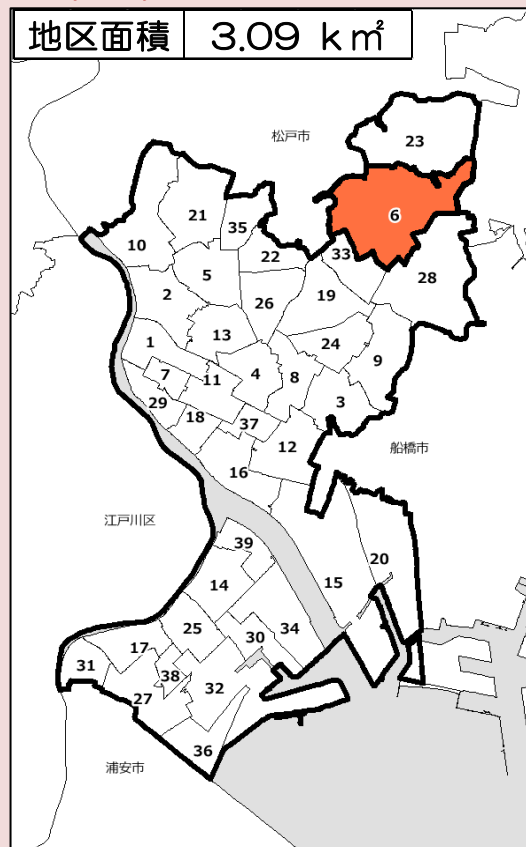


6 大柏小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

大柏小学校区は市の北東部に位置し、地区の南東側は大柏川に面し、一部地区内を横断しています。東側に鎌ヶ谷市、西側に松戸市が隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、台地と氾濫平野で構成され、高低差があります。地区の中央は、第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が建ち並んでいます。また、武蔵野線市川大野駅を周辺は近隣商業地域となっており、商業施設も立地しています。市街化区域と市街化調整区域が混在しています。

◆都市基盤

地区内の武蔵野線沿線の一部は、土地区画整理事業により整備されています。地区の北西から南東にかけて県道9号線が通っています。地区内には大野緑地等の都市緑地があります。また、地区の北西から南東にかけてJR武蔵野線が通っており、市川大野駅があります。地区内には、JR本八幡駅行きの京成バスや市川市コミュニティバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

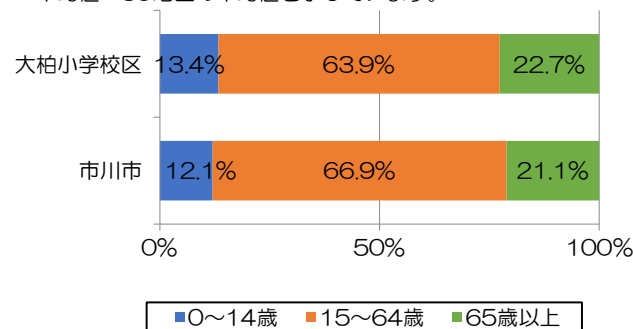
年齢別割合

	大柏小学校区	市川市	割合*
人口総数	13,584人	487,621人	2.8%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



◆建物

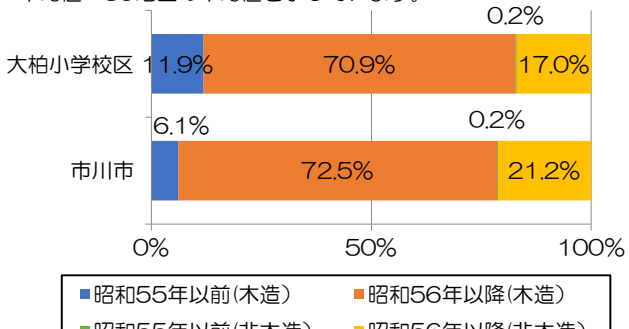
構造別割合

	大柏小学校区	市川市	割合*
建物総数	4,702棟	114,958棟	4.1%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



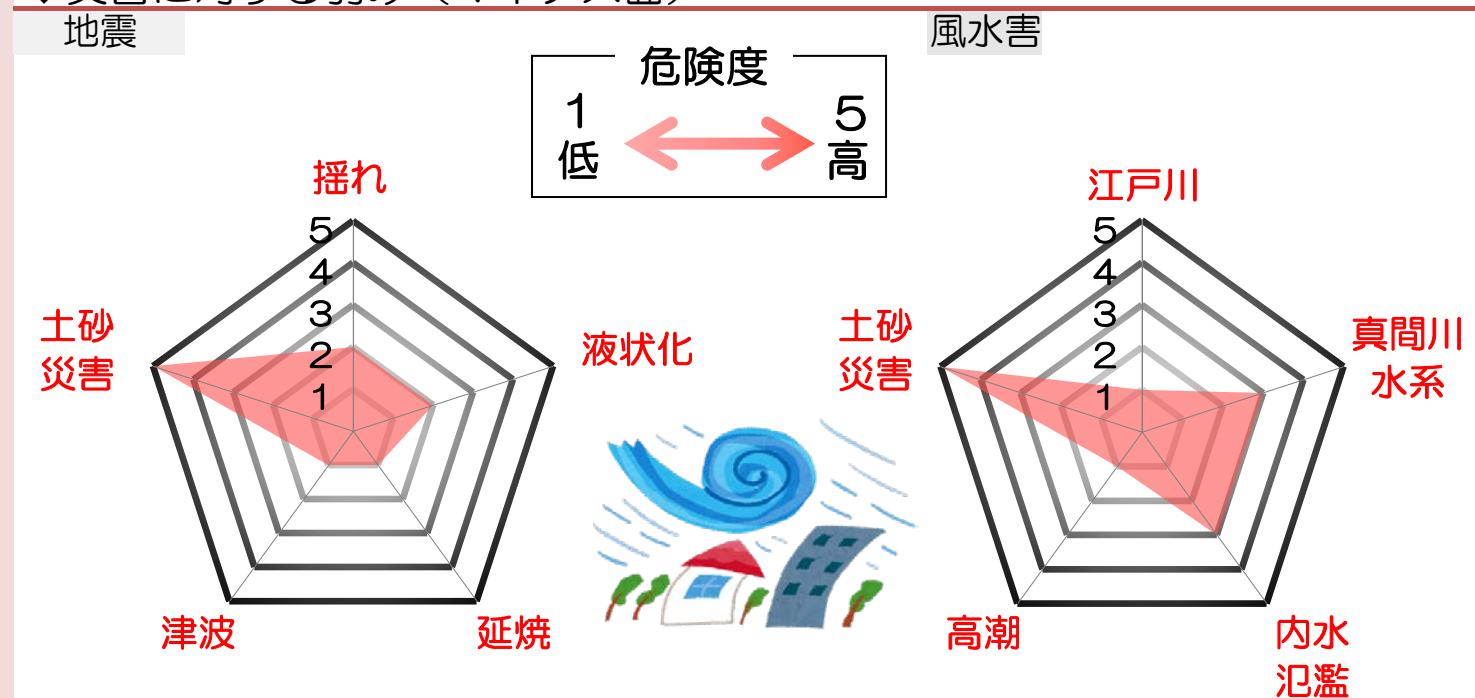
地区の人口は、全地区の平均人口よりやや多いです。また、市全体と比較すると65歳以上の割合がやや高く、高齢の世代がやや多い地区となっています。

地区の建物は、全地区の平均棟数より多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや低いです。また、木造建物がやや多い地区となっています。

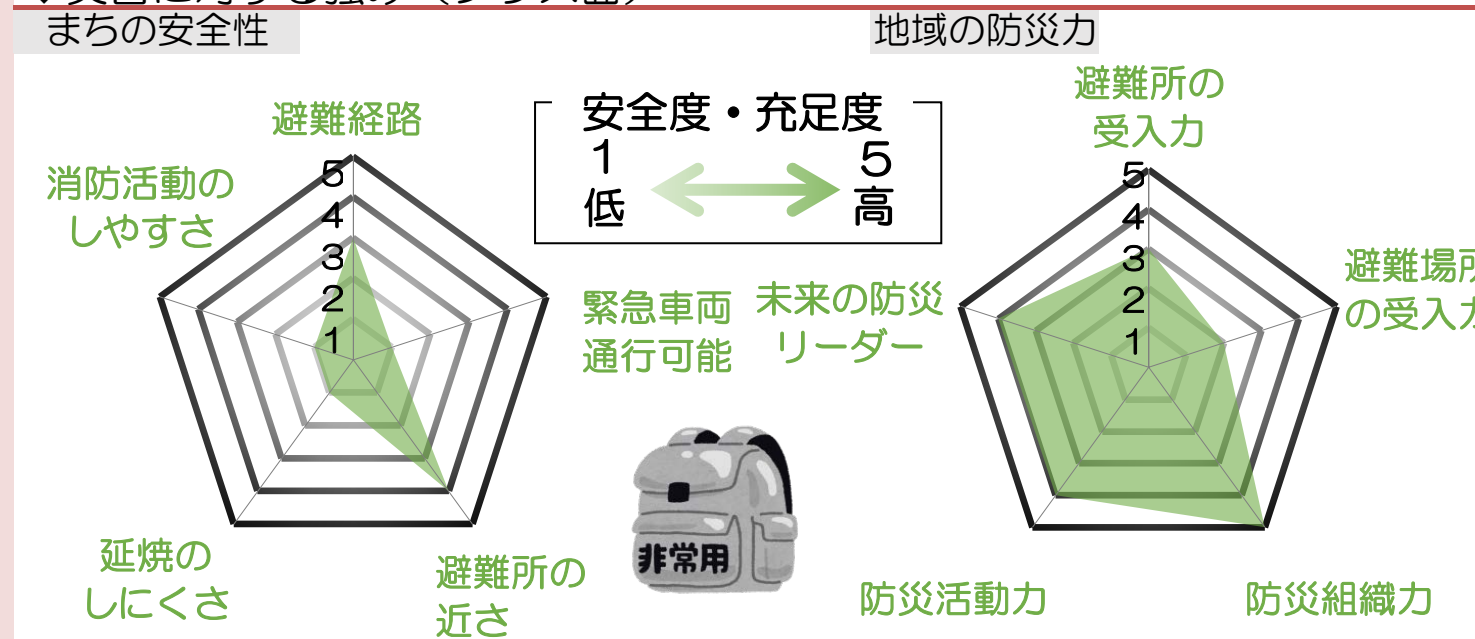
(4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

大柏小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、地区内にがけ崩れ警戒区域があることから、土砂災害による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、真間川から分岐する大柏川が流れていることから、真間川水系の氾濫による危険性が比較的高く、土砂災害の危険性も高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難所の近さは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能や延焼のしにくさ、消防活動のしやすさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力は高い傾向にあるものの、避難場所の受入力は低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
大柏小学校			
第五中学校			
葵の園 市川	○		
市川あさひ荘	○		
いこい荘	○		
梨香園	○		

◆避難場所

名称
大柏小学校
第五中学校

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設 (公設)	なし		医療救護所	大柏小学校
			関連施設	大野駅前交番
			-	
			-	
			-	

要配慮者利用施設 (民設)

2



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果 (地震・風水害)

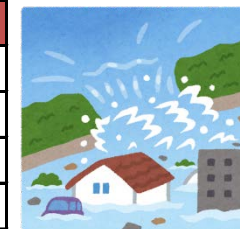
◆地震災害 (被害を受ける割合)

想定項目		大柏小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合 (揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	1.8%	3.3%
	半壊棟数の割合 (揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	11.5%	15.6%
	焼失棟数の割合	0.6%	5.5%
	浸水棟数 (津波) の割合	0.0%	1.0%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	5.1%	7.3%
	避難者の割合	0.7%	0.9%



◆風水害 (被害を受ける割合)

想定項目		大柏小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数 (江戸川) の割合	0.0%	52.0%
	浸水棟数 (真間川) の割合	6.2%	13.6%
	浸水棟数 (内水) の割合	1.3%	20.5%
	浸水棟数 (高潮) の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、建物棟数は多いですが、地形が台地であることもあり、建物被害はやや少ない傾向となっています。また、人的被害については、死者、避難者、負傷者は市全体よりやや少なくなっています。

一方で、風水害については、大柏川が横断していることから、真間川水系の氾濫による影響がありますが、地形が台地であることもあり、市全体と比較して、浸水棟数は少なくなっています。

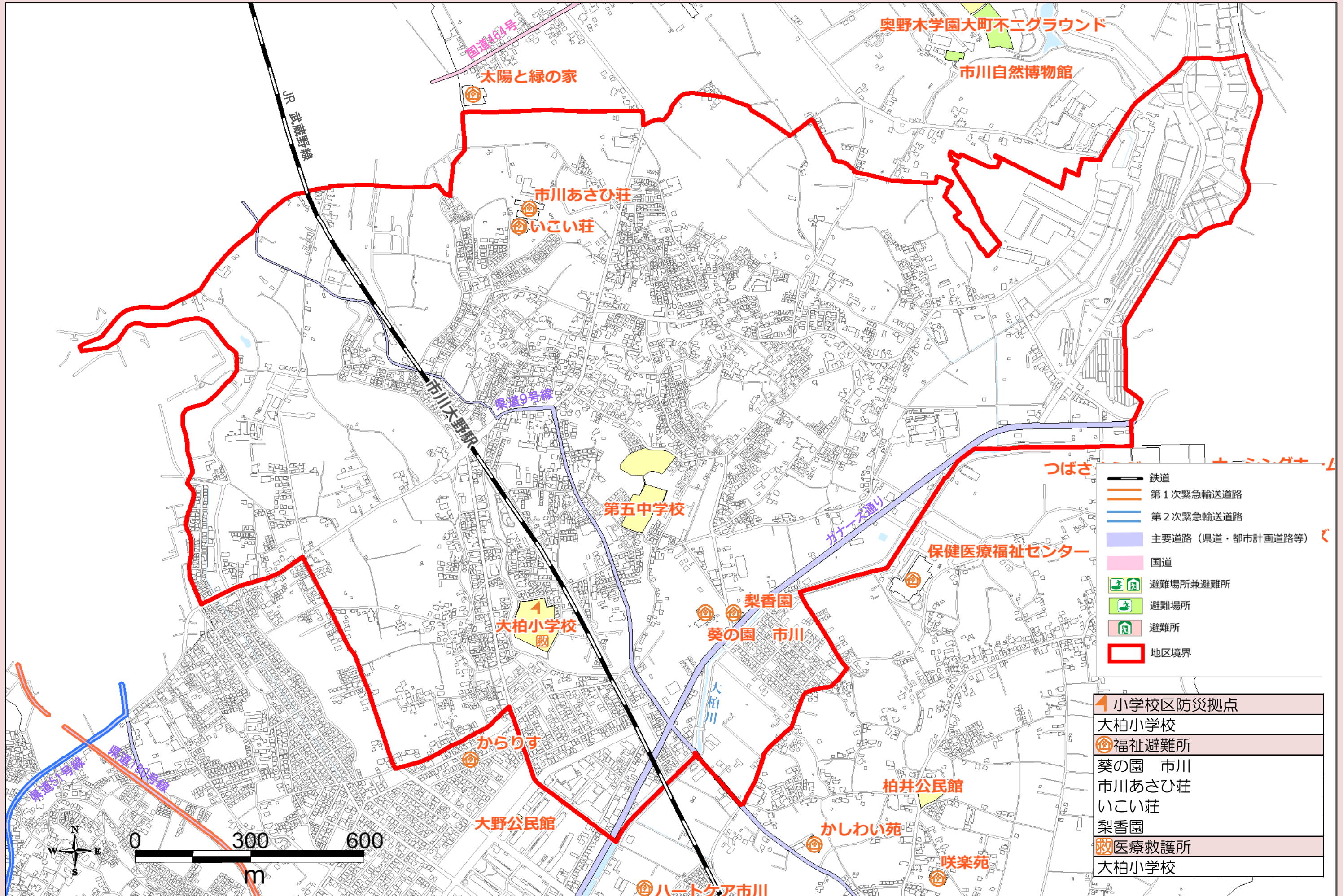
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、最大震度6弱の揺れが予測され、がけ崩れ警戒区域があることから、土砂災害による危険性が高いことから、円滑な避難に備えることが重要です。
風水害	地区内に真間川から分岐する大柏川が流れていることから、浸水被害の恐れがあり、過去には道路冠水及び床上、床下浸水が発生しています。また、土砂災害の恐れもあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、災害時に緊急車両が通行できないことが想定され、初期消火対策や応急手当の対策等が重要です。
地域の防災力	地区内では、避難場所の充足度が低いことから、災害時には避難所及び避難場所が混雑する可能性があり、あらかじめ近隣の避難施設を確認しておくことが重要です。

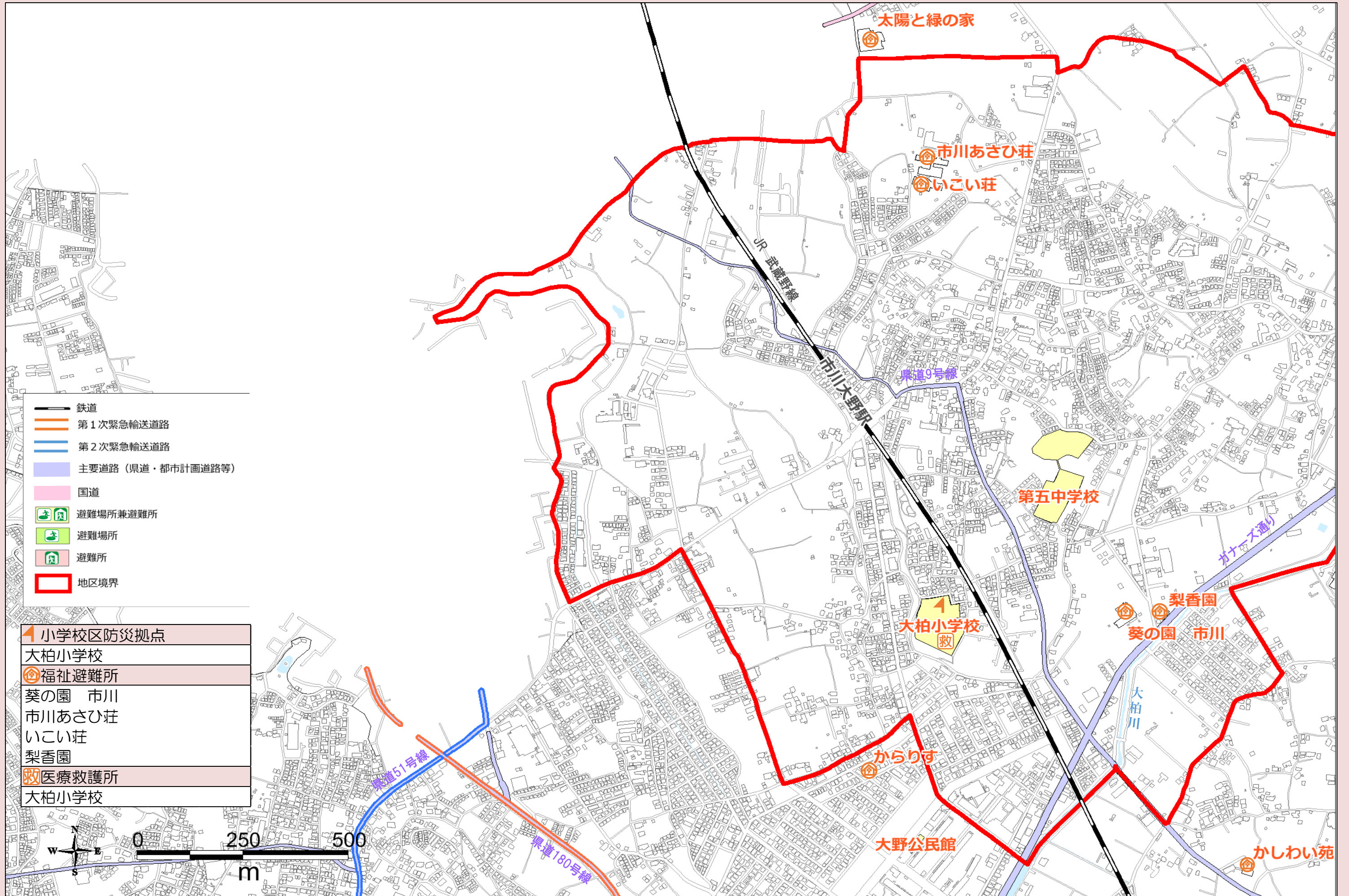
(8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	<p>地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。</p> <p>また、緊急車両通行可能道路の確保ができない可能性が考えられることから、あらかじめ、災害時に負傷者が発生した場合、即座に応急手当ができるように、高い防災組織力を活かし、地域での初期対応の訓練の実施をするなどの対策が効果的です。</p>
個人の取組	<p>地震災害に対する備えとしては、地区内にはがけ崩れ警戒区域があることから、まちあるきをする等、あらかじめ危険箇所を確認し、土砂災害に関する情報収集方法等を確認しておく必要があります。</p> <p>一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。</p> <p>消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが必要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。</p> <p>避難場所の受入れが低いことから、近隣地区の避難場所等についてもあらかじめ確認し、避難する場所についてあらかじめ決めておくことが重要です。</p>

(9) 防災マップ



(9) 防災マップ①

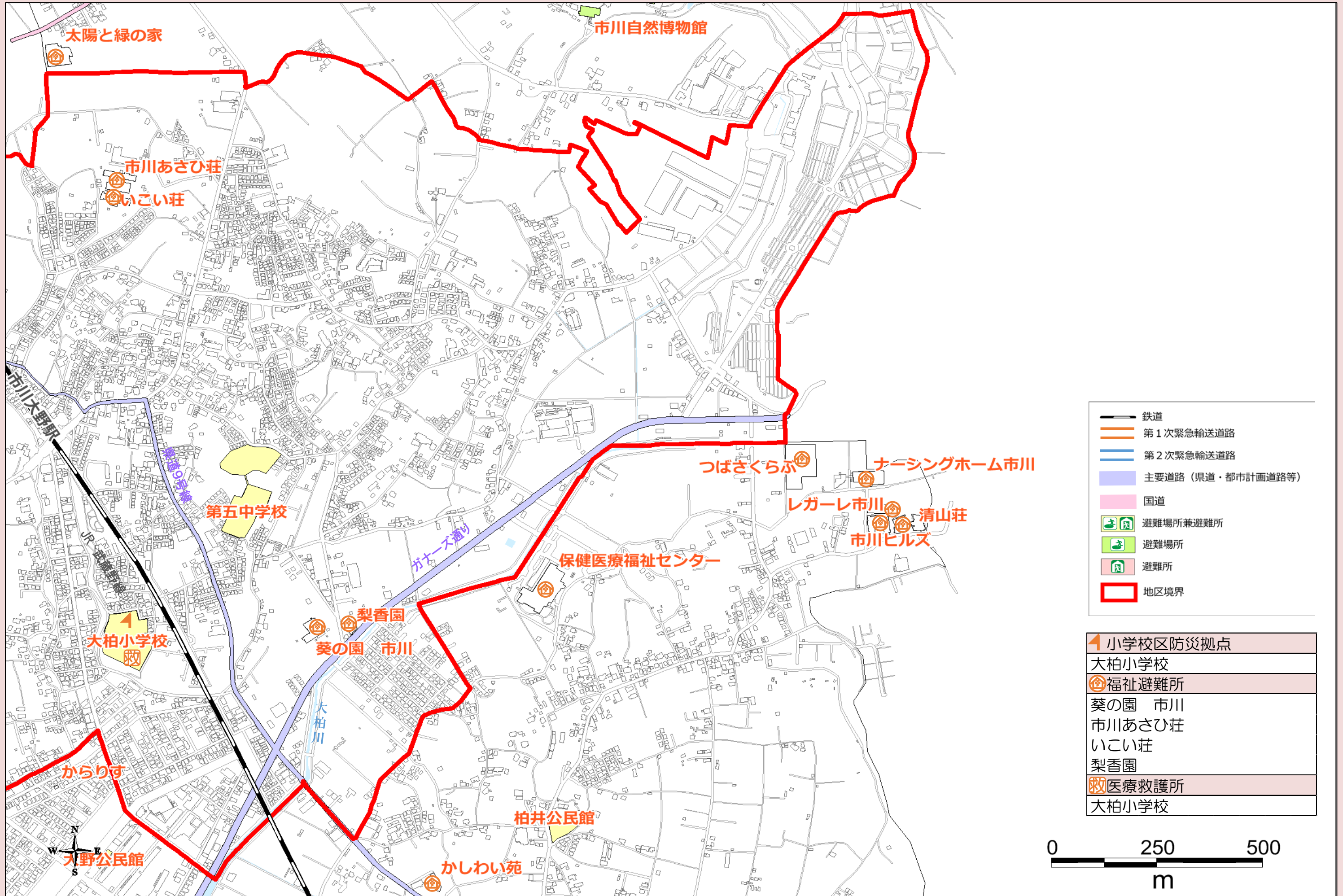


- 鉄道
- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 主要道路（県道・都市計画道路等）
- 国道
- 避難場所兼避難所
- 避難場所
- 避難所
- 地区境界

小学校区防災拠点
大柏小学校
福祉避難所
葵の園 市川
市川あさひ荘
いこい荘
梨香園
医療救護所
大柏小学校

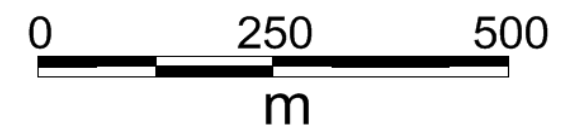


(9) 防災マップ②



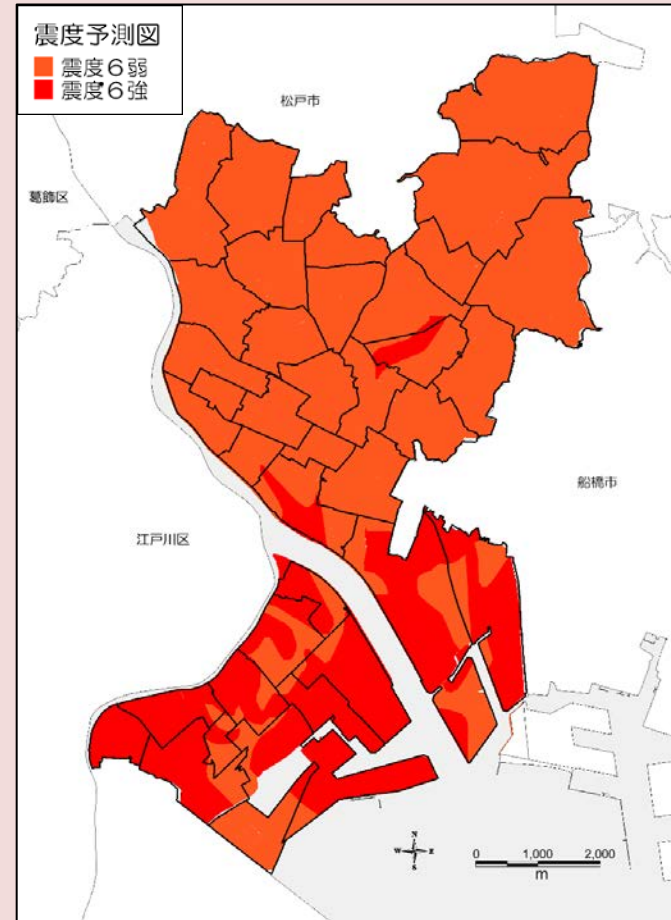
- 鉄道
- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 主要道路（県道・都市計画道路等）
- 国道
- 避難場所兼避難所
- 避難場所
- 避難所
- 地区境界

	小学校区防災拠点
	大柏小学校
	福祉避難所
	葵の園 市川
	市川あさひ荘
	いこい荘
	梨香園
	医療救護所
	大柏小学校



(10) 基礎資料

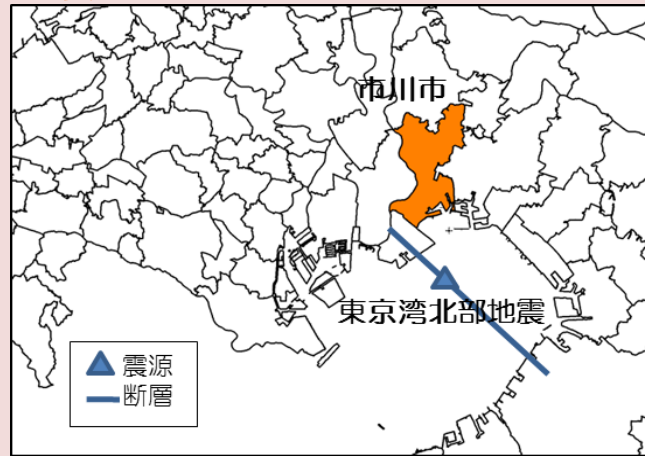
①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

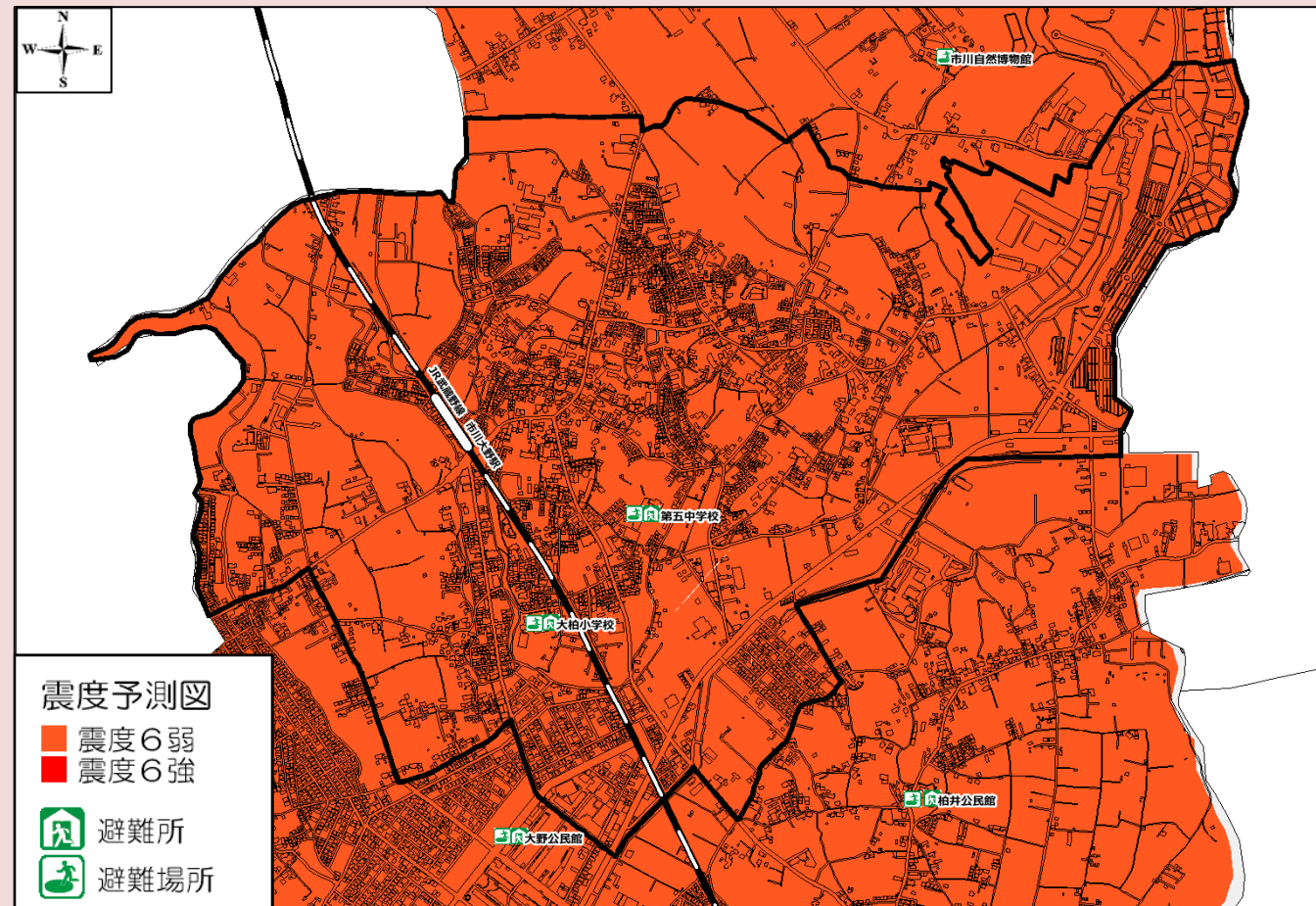
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

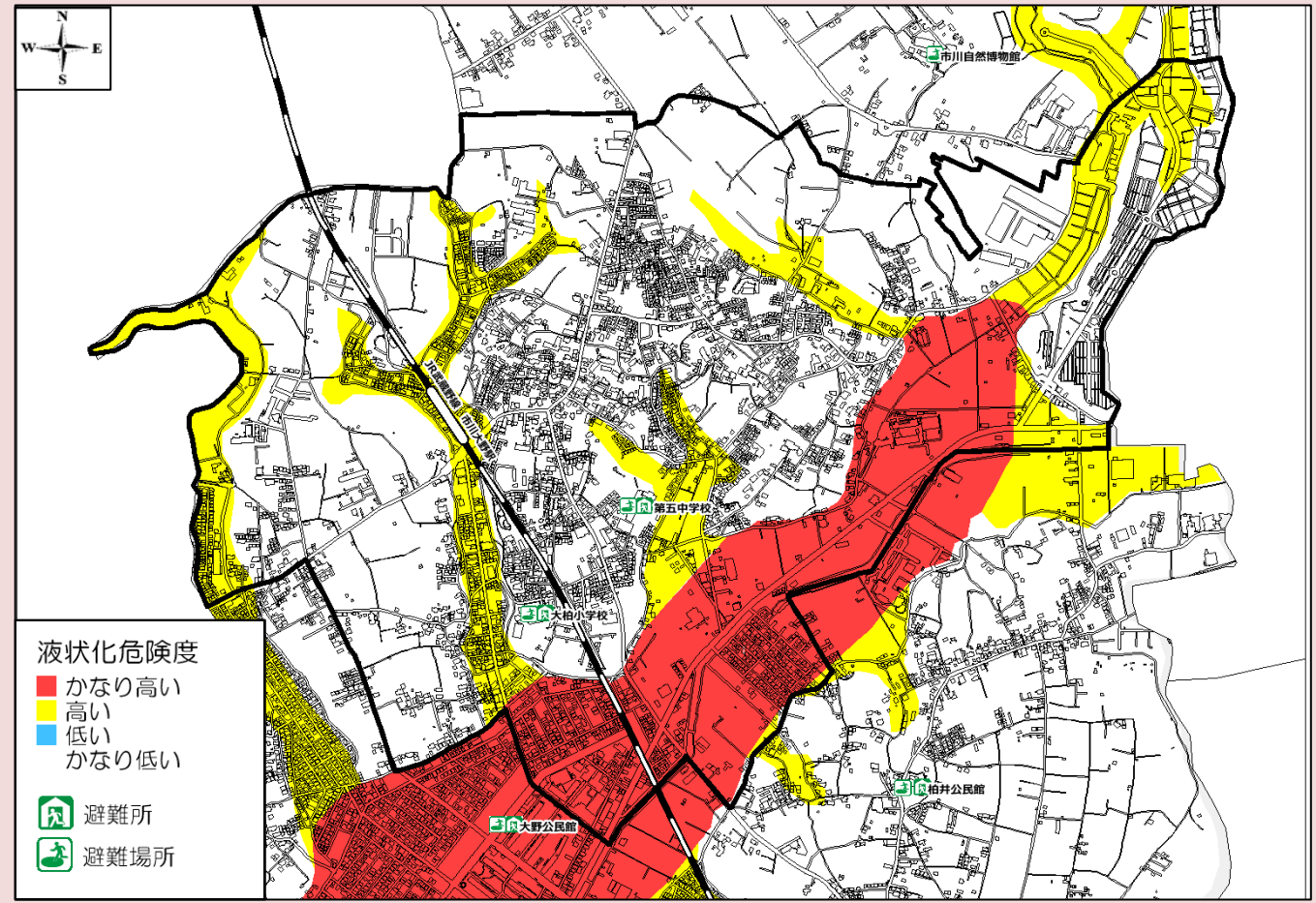


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

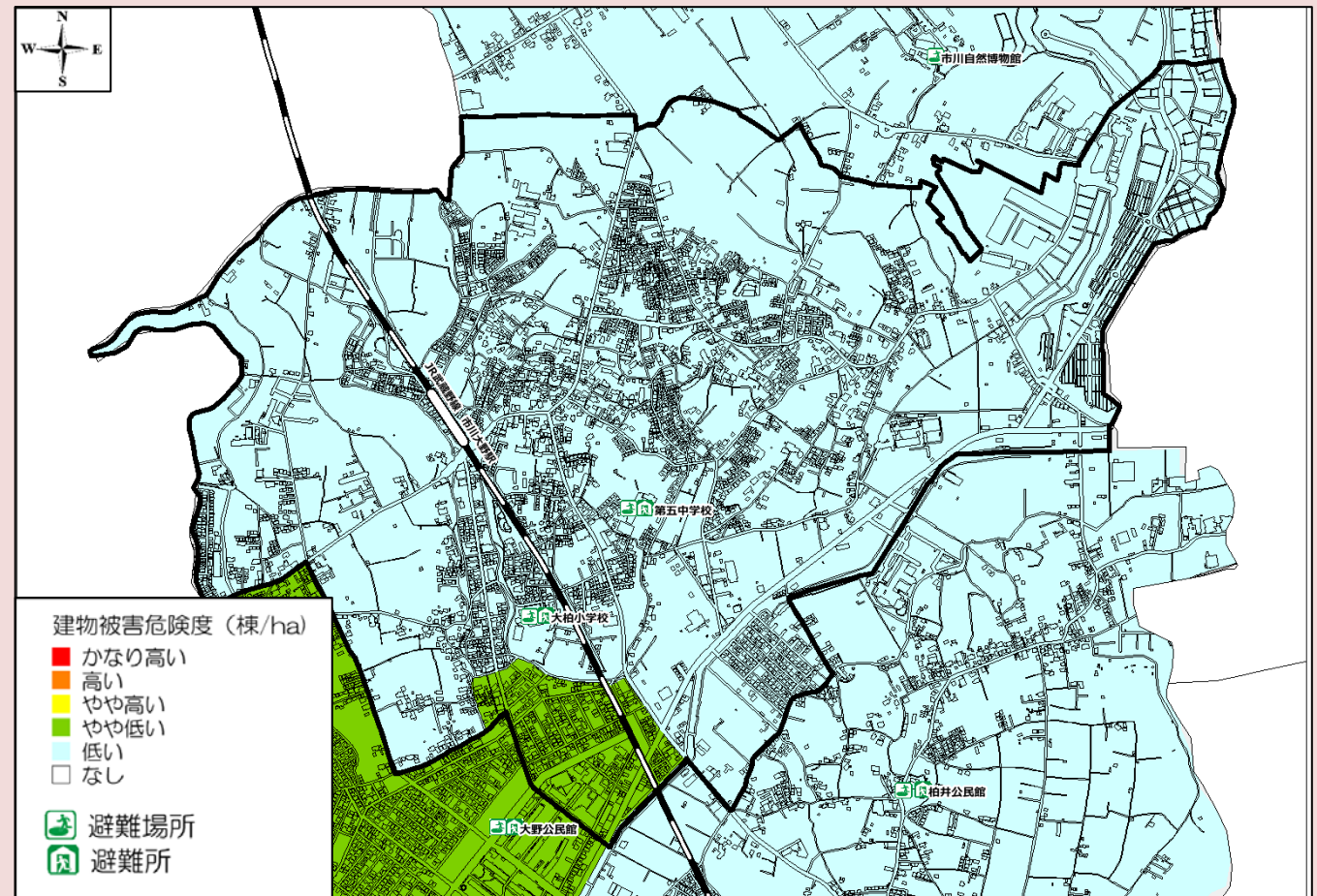
②震度分布図



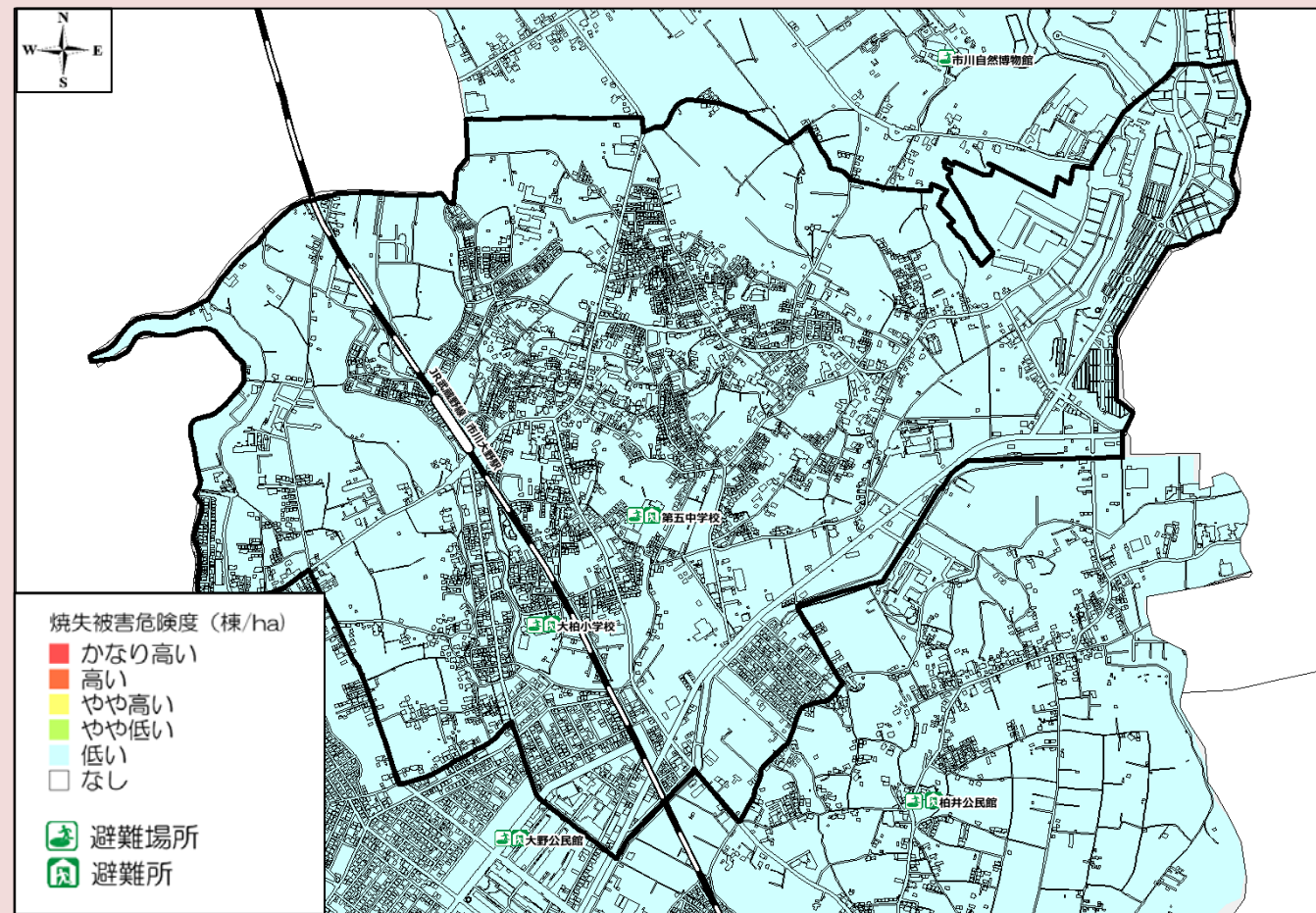
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

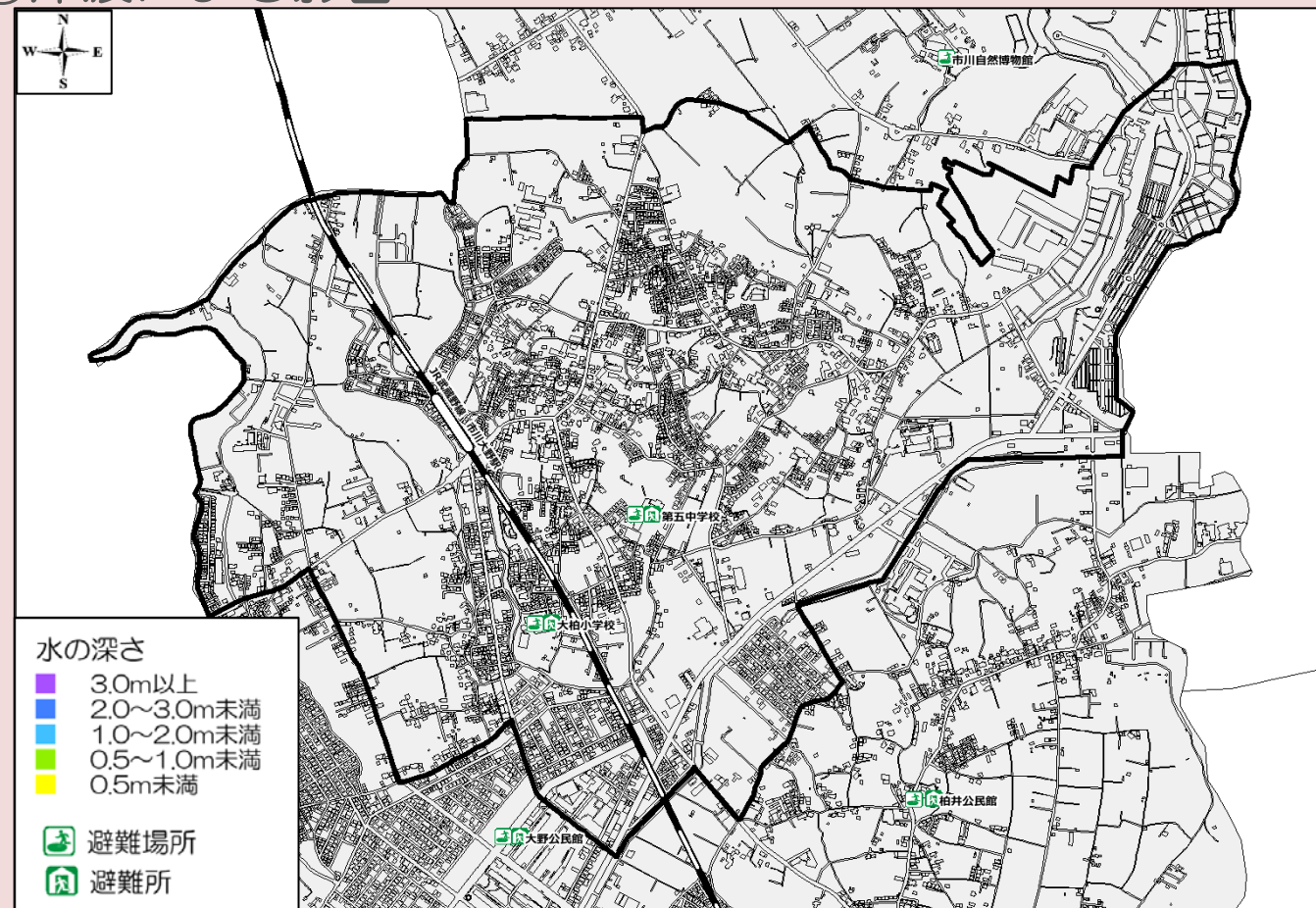
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0~3.0m未満
- 水の深さが1.0~2.0m未満
- 水の深さが0.5~1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

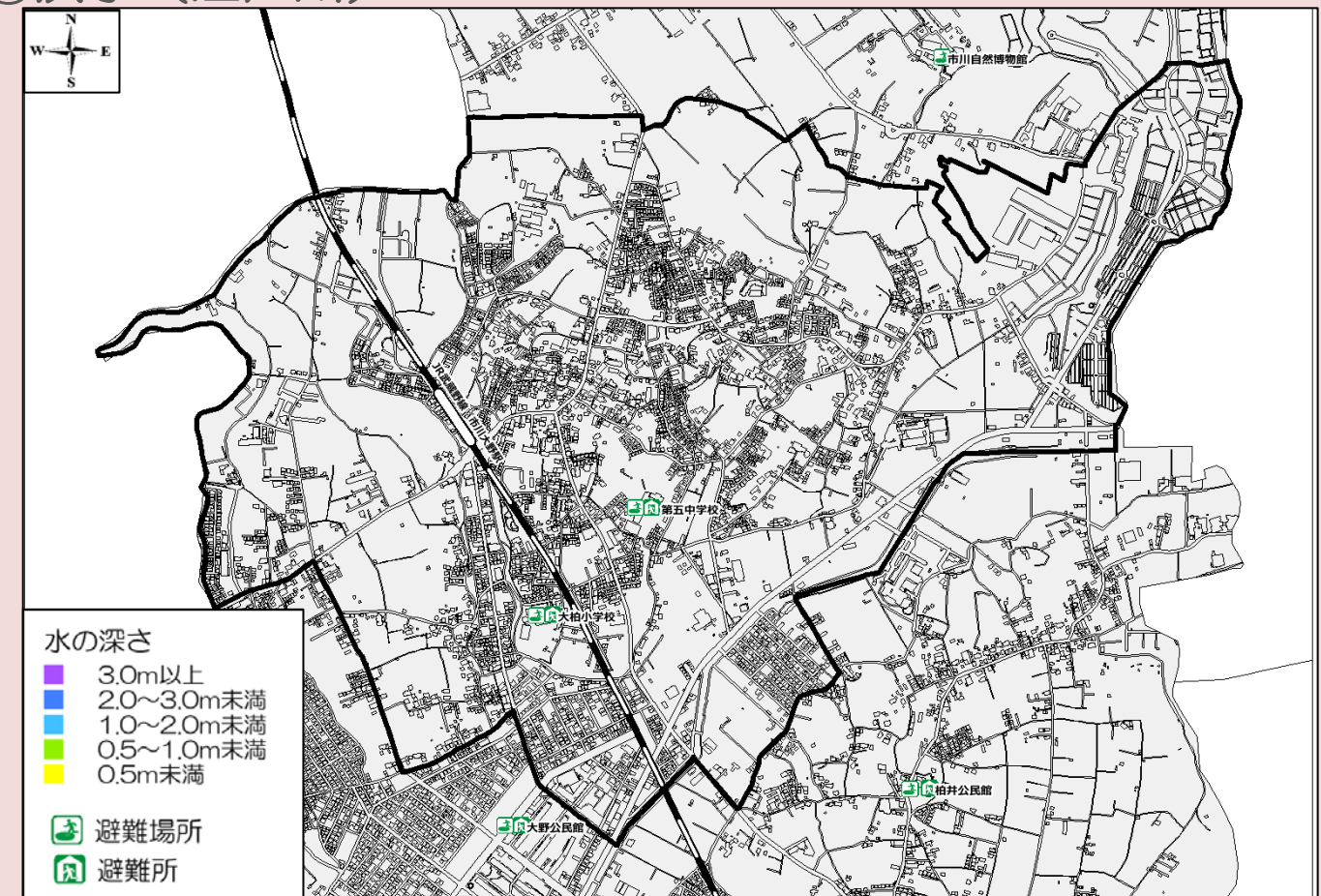
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

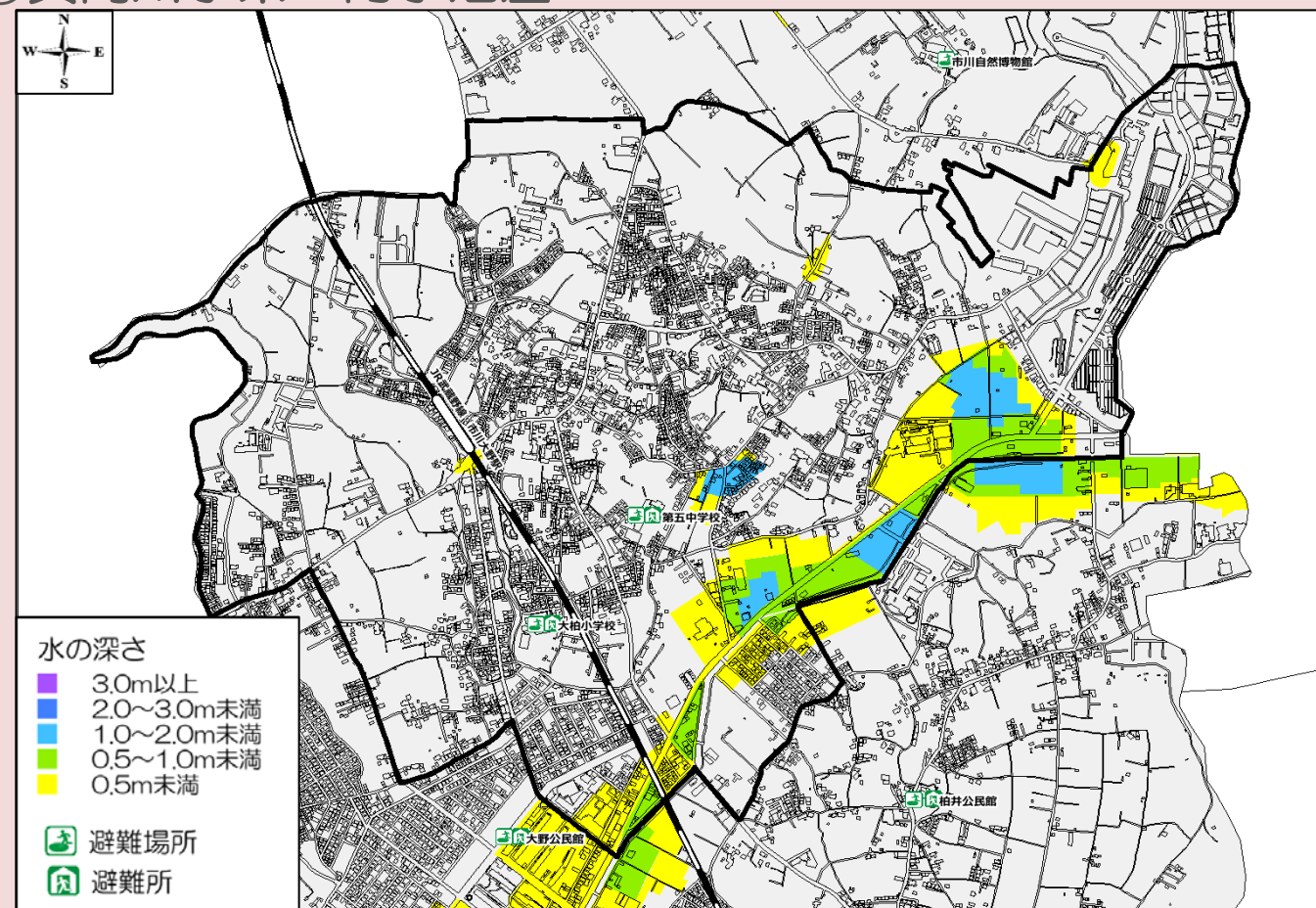
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



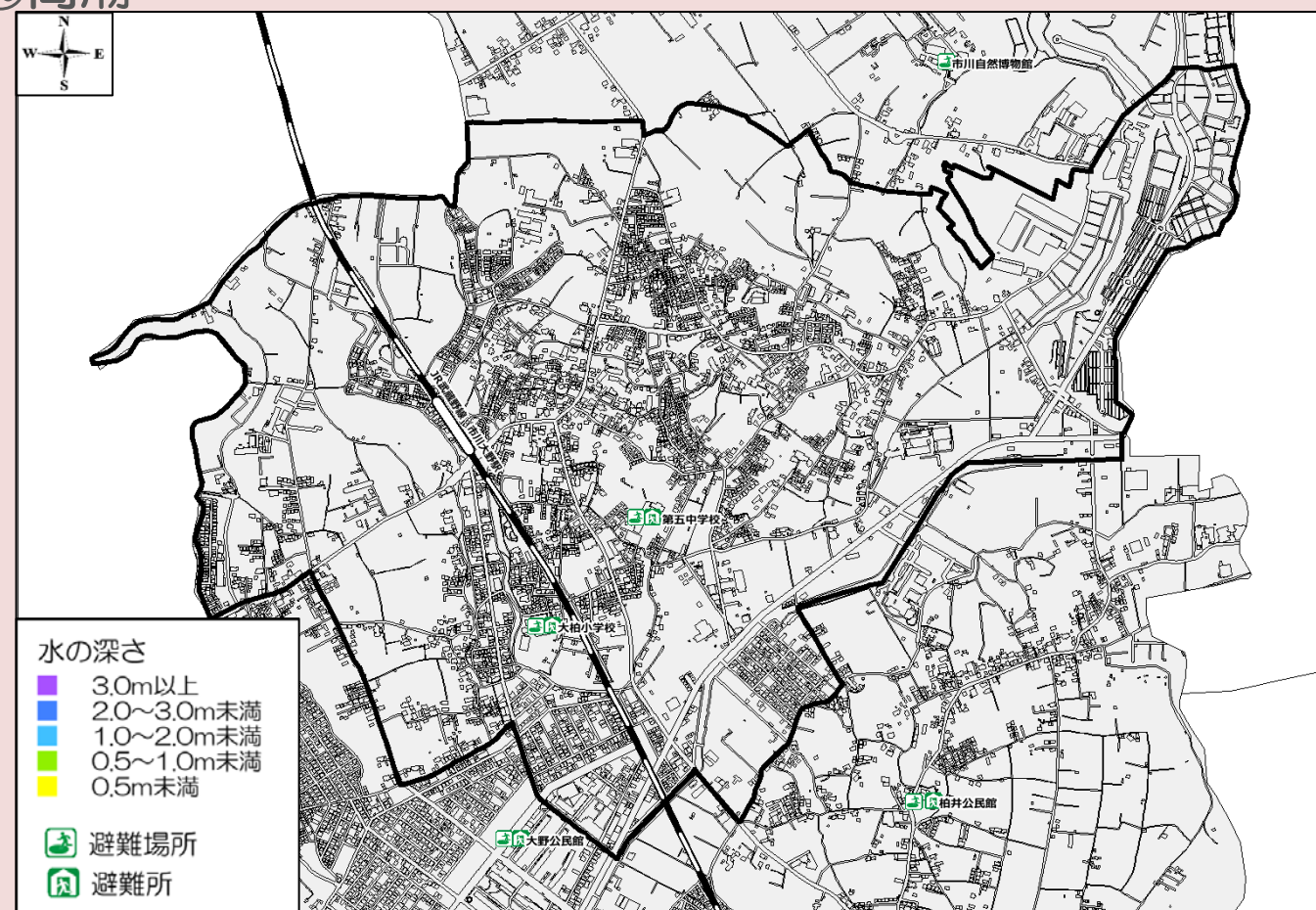
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ

